



織田信長の章

尾張の織田信長は、永祿3年(西暦1560年)、尾張は桶狭間において、西上中の今川義元軍二万五千を、わずか三千で急襲し、滅亡に追いやった。この、駿河、遠江、三河を治める南北朝以来の名家、今川義元を敗ったことによって、信長の武名は、いやがうえに高まっていった。

さらに信長は、年々その勢力を上げていき、天正元年(西暦1573年)には将軍、足利義昭を都から追放、室町幕府を滅亡させた。その後、信長の勢いはさらに激しさを増し、天正10年(西暦1582年)、宿敵武田氏(勝頼)を天目山の戦いにおいて滅ぼしたときには、本州のほぼ半分を征服していたのだった。

エティスは、鬼神と見間違えんばかりの、凄じい戦いぶりを見せる信長に、ただならぬ魔の気配を感じていた……。

登場人物



敵モンスター



織田信長(1534-1582)

1560年に、桶狭間の戦いで今川義元を倒した信長は、以来戦いに明け暮れ、ついには宿敵武田氏をも滅ぼした。そして晩年には、西は伯耆、備中から北は能登、越中までと、本州の中央部のほとんどを征服した。だが、1582年、中国地方の雄、毛利輝元との決戦を前にして、家臣である明智光秀の謀反により、京都本能寺で倒れた。



明智光秀

織田信長に家臣として召しがかえられて以来、重く用いられているが、癩癩持ちの信長に煮え湯を飲まされたことも少なくない……。



法念

信長が、京都での宿舎としていた本能寺の住職。



風神・雷神

風を司どる風神と雷を自由に操る雷神は、ふたりで一対となって攻撃を仕掛けてくる。ふたりは円を描くようにまわりながら、交互に、そして素速く向かってくるが、惑わされてはいけない。冷静にその動きを見極め、まずは風神を倒そう。残る雷神は、10回叩けばやつつけることができる。このふたりとは、最低でも3回は戦わなければならないので、1回の対戦でコツをつかんでおこう。